

令和4年度自己評価結果公表シート

社会福祉法人あけぼの会
あけぼの保育園
あけぼの第2保育園

1. 本園の保育方針及び保育目標

保育方針

- ・ 光り輝く太陽のような笑顔と、愛情あふれる温かさに包まれて、豊かな人間性をもった子どもに育てます。
- ・ 家庭と地域が一体となり、人と人とのふれあいを大切に、子どもたちの幸せと心豊かな育ちへとつなげます。
- ・ 保育に誇りと充実感を持ち、自己をみつめ高めながら、子どもたちのかけがえのない今に、愛をそえて大切にします。

保育目標

～良いはたらきをする心を育てる～

- ありがとうを感じ合えるすなおな心
- 愉快的笑顔で笑い合えるあかるい心
 - お話が好きなひろい心
 - 虫や花をいたわるやさしい心
 - 自然に親しむうつくしい心
- おもいきり遊べるすこやかな心
 - 決まりをまもる正しい心

～自らが持つ生きる力を育む～

六感を刺激し、自然体験活動や様々なものづくり体験など、想像力、創造性、発見、自己実現、人とのふれあいを通して豊かな人間性と個性、協調性を育む

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って園自ら、保育士自ら客観的に自己評価を行い、平成27年度に施工された子ども・子育て支援新システムへの対応を検討し、義務教育及びその後の教育の基礎が培われるよう、保育の質を高めるために常に向上を目指します。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育方針や保育目標の明文化と周知	新型コロナウイルス感染症の影響により入園説明会は資料を配布し周知。 在園の保護者には、懇談会（オンライン）等で保育方針及び保育目標を説明、周知。
② 子ども・子育て支援新制度への対応	園が所属している団体の研修会に参加をし、職員間の研修内容の情報を共有しながら理解を深めていく。
③ 職員の資質、保育の質の向上	外部で開催される研修会や園内研修などの学びを通して職員の資質向上を図っている。令和4年度においてはオンラインと集合型研修などを活用し参加。
④ 幼保小の連携	近隣小学校との連絡会議や交流会への参加を予定していたが新型コロナウイルス感染症の流行に伴い交流会は中止。連絡会の実施となった。一部小学校とはオンラインでの交流会を行った
⑤ 防災・防犯意識の向上	毎月の避難消火訓練。また防犯訓練や通報訓練を行い、緊急時の対応に対処している。消防立ち会い訓練も行い、防災・防犯意識の向上を図った

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議のあり方を見直し、全体会議をやめ、ミニマムな形の会議を取り入れた。午睡時間を活用しながら、話すべき目的を事前提示し、会議時間の適正化を図った。その中で保育内容の確認・見直し等を行い、取り組むべき課題や、子ども達の処遇、園の方針を職員皆で共有することに務めた。 ・職員一人一人が自分自身を自己評価し、来年度に向けての課題、それに対してどうアプローチしていくのかを共有していきながら、それぞれの保育の質向上に向けて前進できていると感じている。 ・園外研修にも積極的に参加をし、社会情勢や保育情勢の動きも理解しつつ、園の方針と照らし合わせて何を大切にしていけるのかを考えられるようになり、職員の質の向上が図られた。今後も専門性を高めてけるような研修内容、会議内容にしていきたい。 ・保育内容も随時見直しを図り、「子どもたちの最善の利益」を軸にし、大人の意図が優先される保育ではなく、子どもの意図が優先される保育への転換を職員だけではなく、保護者にも説明をしながら保育を行ったことは一定の評価を得られた
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育計画の編成	平成30年度より保育所保育指針の施行が行われた。また、煩雑となっていた保育計画を再編成し、本当に必要な計画はどれか精査をし、より保育内容に特化した保育計画への編成した
新制度への理解促進	保育所保育指針の改定や保育政策などにより園の方針や目標が変化していく中で、保護者に対しても園の考えや、思いをきちんと理解した上で共に子どもたちの保育を見据えていけるよう伝えていきたい。社会から求められる保育とは何か？その部分を今年度は特に注力した。
職員のより一層の資質向上	前述での通り、社会から求められる保育は変化を続けている。そこで働く職員の資質向上は絶対的に必要であり、キャリアパス研修への参加、外部研修・園内研修を通して必要な専門性の向上が図られる研修を計画していく。

6. 評価項目の自己評価

評価項目	評 価
3—①	<p>令和4年度は新型コロナウイルスの影響により、新入園児に対しては入園説明会を行わず書面にて保育方針や保育内容を周知。</p> <p>毎月の園だより、園からのお手紙を通して周知徹底を図った。</p> <p>懇談会や行事などを通して、理念や方針をどう保育に反映しているのか、何が大切なのかを伝え、子どもたちの様子から保育に反映されている事が感じられた。</p> <p>保育が養護と教育が一体化して行われている点について、世間（社会）と保育園とでは差があるように感じ、その部分が丁寧に落とし込めなかったことが今後の課題として残った</p>
3—②	<p>外部研修はオンラインと対面研修がバランスよくあり、理解を深めることができ、保育の質向上に努めることができた。今後の課題として、自分達がやってきた保育の言語化、実践発表する場を設けて、保育を客観視してみるということを挑戦してみようという課題も出た。</p>
3—③	<p>3—②での通り、オンラインや対面研修会への参加、園内研修の実施などで内容の充実が図れた。</p> <p>研修に参加できない、できなかった職員に対しては、外部研修に対して共有会議、園内研修に関しては、研修内容を撮影し動画配信とすることで全体の保育の質向上に務めた。研修会の内容を自分達のクラスにどう実践する形まで落とし込むことが課題である。</p>
3—④	<p>新型コロナウイルスの影響により、実際にその場に行っていた交流会はできなかったが、オンラインで小学生と話をしたり、小学校の様子を教えてもらったりと、新たな取り組みをし、卒園児が新しい環境へ見通しを持てることへの配慮を評価したい。</p>
3—⑤	<p>いつ起こるか分からない災害等に対し、園児の最優先を考えた避難計画の作成、訓練の実施、避難用具や非常食の定期的な見直しをすることにより、安心して保育園に通えるような努力をしていることが伺える。防犯に対しては、防犯カメラの設置、総合警備保障とのセキュリティの委託など積極的に防災、防犯に取り組んでいる。引き渡し訓練や消防立会訓練も実施できた。</p>

7. あけぼの会関係者の評価

理事・評議員の皆様は令和4年度のあけぼの会の報告をした。理事長より「【保育を再構築する】をテーマに今年一年も取り組んできた。課題はあるし、全職員がその意識を持って保育をすることが中々難しいところがあったが、あけぼのの保育を見つめていくことができた。その中で、あけぼのの保育のレベルが高いと言われ、あけぼのの保育を基盤とした育成がうまくいかず、退職者が増加してしまった。この部分については難しい問題ではあるが、【育成】の課題はあけぼの会として見直しを図らなければならない部分であると今年度より痛感した。この課題や発見を来年度に活かしながらより良い保育を目指していきたい。」と報告した。理事・評議員の方々からは、新型コロナウイルス感染症の影響は減ってきているが、まだまだ判断が難しい中での保育運営だったと思うが、子どもたちが健康で安全に過ごせたことを評価いただいた。

職員の処遇に対しては、保育園の悪き常識や習慣を見直すことをテーマに、会議のあり方、行事・製作のあり方を昨年度に引き続き見直しを図り、保育に集中できる環境を自ら準備をする、ワクワクしながら働くを目標にやってきた。難しいこともあるが、残業時間が減ることで、職員も働きやすくなり、保育とプライベートの両立を図ることができた。

日々の保育に集中できることで時間に追われず子どもたちとの充実した時間を過ごせ、新たな取組にもチャレンジできる時間を作ることができ、それが働きやすい環境に繋がっていく（いる）のではないかと考えていると説明。その方針に対して評価するとのお声と、変化をしてくことは大変なことも沢山あるとは思いますが今後も継続して頑張りたいとの励ましの声もいただいた。

8. 財務状況

社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム 参照